



玉幡小学校 学校だより 第20号

チーム玉幡

平成31年 1月28日(月)

校長 望月和彦

感謝の気持ちを大切に！

全国的にインフルエンザの流行が警報レベルになり、先週は本校でも徐々に流行の兆しを見せ始めています。全校児童の罹患者数はそれほど変化していませんが、欠席者の多い学年は、6年生から1年生、1年生から3年生へと変化してきています。（正確には、インフルエンザ罹患者は「欠席」ではなく「出席停止」扱いです。）自分自身のためばかりでなく、家族や周りの人たちの健康を守るためにも、可能な限りの予防対策を児童に呼びかけていきたいと思えます。予防のための方法や罹患した時の対処法については、1月15日と1月25日に発行された「保健室から」（保健だより）をお読みください。

さて、26日の夜はテニスの全豪オープンの試合をテレビでご覧なった方も多いのではないのでしょうか。大坂なおみ選手が、全米オープンに続くテニスの四大大会の連続優勝を果たし、日本人として初めて世界ランキング1位になりました。スポーツ観戦が好きな私は、最初から最後までテレビに釘付けで観てしまいました。大坂選手の粘り強いプレーに驚嘆するとともに、優勝後のインタビューにとっても感動しました。彼女はインタビューの冒頭で、相手のペトラ・クビトバ選手を褒め称え、感謝の気持ちを伝えました。「ペトラ、本当におめでとうございます。あなたといつも対戦したいと思っていました。大変なことを乗り越えてきましたよね。（ペトラ選手は利き腕の大けがから復活した選手です）…あなたとあなたのチームにおめでとうございますと伝えたいです。決勝であなたと対戦できたこと、非常に光栄に思います。」と。さらに、会場に来てくれたファンの方々には「暑い中私のために応援してくれてありがとう。」大会役員、ボールキッズ、大会ボランティアの方々には、「皆さんが運営のために走り回ってくれたおかげで、私たちは精一杯プレーすることができました。ありがとう。」そして、自分を支えてくれたチーム（コーチやトレーナーや家族）に、「あなたたちがいなかったらこの大会を乗り越えることができなかった。」と話しました。

大坂選手の言葉から「どんな人でも、見えるところや見えないところで、たくさんの人の助けや支えを受けて存在できている。」ということに改めて思いを馳せることができ、それを優勝インタビューの最初に言葉として伝えた大坂なおみ選手はとても素敵の人だなと感じました。そして、私たち教職員も、多くの方々の支えの中で教育活動ができていることを肝に銘じておかなければならないし、自分の周りにいる人々に対して感謝の気持ちが表せる児童を育てていきたいと強く思いました。

青空の下、仲間とスキーを楽しみました

1月11日(金)に5・6年生がスキー教室に出かけました。場所は長野県の富士見高原スキー場です。スキー場に着くと、子どもたちは事前にスキーの経験や技術力によって編制した9つの班に分かれ、専門のインストラクターからレベルに応じて安全に楽しく滑る技術を教えてもらいました。当日は快晴で見晴らしも良く、日中は汗ばむような絶好のスキー日和でした。午前中はおそろおそろゆっくり滑っていた子どももいましたが、午後にはすべての子どもがリフトに乗って、上から滑り降りることができました。中には一番高いところから一気に下まで滑ってくる子たちもいて、子どもたちの上達の早さには驚かされました。お昼にはおかわり自由のカレーライスを食べ、仲間と思う存分スキーを楽しんでくることができたようです。



「昔からの遊びの会」

1学年では、1月23日（水）の3・4校時に「昔からの遊びの会」を行いました。これは生活科の学習として、昔から伝わる子どもたちの遊びを地域の方々から教わりながら学ぶ行事です。講師として、セミナーハウスを介して「竜王中部コミュニティ委員会」の15名の方々に来ていただきました。コミュニティ委員会は、穂坂勝命委員長さんをリーダーとする各地区の自治会長さんや代表の方々、子育て支援 NPO の方々などからなる組織で、数年前からこの行事の講師を引き受けてくださっています。（昨年度はインフルエンザ流行のため中止でした。）体育館でははじめの会が終わると、①竹とんぼ ②あやとり ③こま ④けん玉 ⑤お手玉 の5つのブースに講師の方々が分かれ、子どもたちが班ごとに順番に5つのブースを巡ります。各ブースでは、担当の講師の方がそれぞれのあそびが上手にできるための「こつ」を子どもたちに優しく丁寧に教えてくれました。体育館のあちこちで歓声が響き、子どもたちが上手にできると、講師の先生方が自分のことのように喜んでくれたのが印象的でした。



会の後、教えていただいたお礼をかねて、講師の方々には1年生と一緒に教室で給食を食べていただきました。給食を食べながら、講師の方々は子どもたちに昔と今の給食の違いを話してくれたり、学校の様子について子どもたちに尋ねてくれたりして、子どもたちが地域の方々とふれあう大切な機会にもなりました。「開かれた学校づくり」をすすめる重要な行事として、来年度以降も継続していく予定です。

最近の学校の様子から



1月25日（金）4年生が、社会科の伝統工業の学習として、身延町の「なかとみ和紙の里」と富士川町の「甲州雨端硯本舗」をバスで訪問し、見学させていただきました。本物の和紙づくりを体験したり、職人さんから硯の作り方を教えていただきました。



「給食週間」（1/21～25）に合わせて、給食委員の児童が校内TVを使って、普段入ることのできない給食室の様子を説明しました。



1/21～23 山梨県教育祭 図工・美術作品展の県特選になった中巨摩の児童の作品が本校に回覧されてきました。本校児童6人の作品も含まれています。